

国際色豊かに育て! 宗像の子どもたち

2013イングリッシュ・サマーキャンプ in むなかた English Summer Camp

市内小学5、6年生を対象とした「2013イングリッシュ・サマーキャンプ in むなかた」を8月19日～同21日の2泊3日、グローバルアリーナで実施しました。これは、子ども基本条例に基づき、子どもたちのコミュニケーション能力向上や体験活動を目的とした事業で、今年で2年目を迎えました。



英語で話しながらカレー作りに挑戦

公開抽選会で選ばれた40人の子どもたちは、まず、グローバルアリーナで入国手続きをしました。初めは、英語での問いかけに少々戸惑い気味の様子。しかし、そんな心配はあっという間になくなり、ゲームなどの活動に取り組むにつれて笑顔も増え、積極的に外国人スタッフに話しかける姿が見られました。

1日目と2日目の野外炊飯は、それぞれカレーとプリトー（小麦粉が原料の、薄く丸く焼いた生地、野菜や肉などをはさんで食べるメキシコ料理）作り。プリトー作りは初挑戦の子も多く、スタッフの英語での説明を真剣に聞いていました。グループで協力して作ったものは格別だったことでしょう。



初めて体験した染物のTシャツ

2日目の活動では、Tシャツ作りで染物を体験。輪ゴムで絞り模様を付け、グループごとに紫、オレンジ、水色、緑、赤に染め、それぞれすてきなTシャツが出来上がりました。この日の夜のキャンプファイヤーでは、木の枝を使い、「焼きマシュマロ」を楽しみました。「マシュマロ、プリーズ!」と、何個も食べている子どもがいるなど、大人気でした。

また、3日間を通して、スキット（英語劇）とチャンツ（英語の歌）にも取り組みました。3日目には、グループごとにスキットを発表。限られた時間でしたが、大きな声を出して英語で表現している子どもたちの姿は、とても頼もしかったです。チャンツには振り付けがあり、3日間ですっかり覚えてしまった子どもたちは、元気いっぱい歌いながら踊っていました。

参加した自由ヶ丘小6年の野村莉那（りな）さんは「参加する前は英語が分からないからとても不安だったけど、このキャンプで少し分かるようになりました。スキット発表では、私たちの劇が1位に表彰されて嬉しかったです」と大満足の様子でした。



元気いっぱい、3日間のキャンプでみんな仲よくなりました

■問い合わせ先 子ども育成課 ☎(36)1214



じゃれ合う両市の子どもたち

今回は、各家庭に1人ずつ、2日間お世話になりました。各家庭では、ナムルやトッピングなどのおいしい韓国料理が振る舞われ、一生懸命にコミュニケーション

の他、英語やボディランゲージを駆使し、何とか思いを伝えようと奮闘する姿も。両市の子どもたち、お互い楽しみながら、一生懸命にコミュニケーション

同6日のレクリエーション活動では、チームに分かれて大縄跳びなど、さまざまな競技の対

同7日は、ホストファミリーとのお別れです。中には、泣いて別れを惜し

抗戦を実施しました。この活動を通じて、子どもたちの仲はさらに深まったようです。この日の夕方



すっかり仲良くなった両市の子どもたち レストランで記念撮影

2泊3日という短い期間でしたが、金海市の子どもたちを中心に、ホストファミリーの優しさがあふれる素晴らしい交流

■問い合わせ先 秘書政策課 秘書担当 ☎(36)0890

1年ぶりの再会

宗像市と金海市の子どもたち

宗像市・金海市青少年交流団が8月5日、韓国の金海市を訪問しました。

武地区の小学4年生と小学1年生の7人。子どもたちは、1年ぶりの再会を心待ちにしていたようです。

同5日の夕方、ホストファミリーが待つ金海市役所に到着。両市の子どもたちは、少し緊張した面持ちで対面しました。

同5日の夕方、ホストファミリーが待つ金海市役所に到着。両市の子どもたちは、少し緊張した面持ちで対面しました。



金海市の空港で温かい歓迎を受けた宗像市の子どもたち

市の子どもたちは、バイキング形式のレストランで、一緒にご飯を取りに行ったり、写真を撮ったりして、すっかり打ち解けていました。

今回、初めて金海市を訪問した安永初花（うい

か）さん（吉武小5年）は「金海市に行く前は不安だったけれど、また、金海市のみんなに会いたいです。今度はもう少し韓国語を話せるようになっていきたいです」と話

となりました。また、異国の文化を肌で感じることもでき、宗像市の子どもたちにとって、とても良い経験になりました。この交流を経験した子どもたちが、両市の姉妹都市交流の担い手となることを期待します。